

鹿児島女子短期大学 自己点検・評価報告書

令和6年6月

はじめに

令和 6 年度自己点検・評価報告書は、「志學館未来計画（2022-2027）」下での「2023 年度事業計画」の進捗状況の検証をおこなった。

目次

1. 令和 5 年度 事業計画の達成状況
 - 1.1 総評
 - 1.2 各基本計画の達成状況
 - 1.3 KPI の達成状況
2. 大学・短期大学評価基準による点検・評価活動

1. 令和5年度 事業計画の達成状況

1.1 総評

志學館学園第4次経営計画「志學館未来計画 2022-2027」（以下、第4次計画）を受け、令和4年度から始まった事業計画は「Ⅰ 教育研究活動」、「Ⅱ 学生支援」、「Ⅲ 管理運営」、「Ⅳ 学生受入（学生募集）」、「Ⅴ 社会貢献」の5つの基本計画からなる。達成度については、評価基準をS（達成率 101%～）、A（達成率 80～100%）、B（達成率 50%～79%）、C（達成率 20%～49%）、D（達成率 0%～19%）及びN（環境の変化等で施策を廃止した）としている。

令和5年度の基本計画別の達成状況は表1の通りである。達成度Sの項目は全体86項目の3.5%、達成度Aは64.0%、達成度Bは28.0%、達成度Cは3.5%、達成度Dは1.1%であった。前年度の達成度と比較すると、達成度Aの比率が高くなり、達成度B～Dの比率が低くなっている。初年度であった事業計画の内容をしっかりと踏まえて計画的に目標を立てた成果であると考えられる。高等教育機関への期待と要請に応えるためにも、各年度の事業計画を全学的に地道に遂行、PDCAサイクルが機能するようにし、達成度を現状維持もしくは高めていくことが求められる。また、新たな計画や目標を立てる必要性に応じて、適時項目の見直しも行っていく必要がある。

表1 令和5年度 短期事業計画 達成状況（数値の下段は令和4年度短期事業計画達成状況）

達成度 基本計画	S	A	B	C	D	N	項目数
	101%～	80～100%	50～79%	20～49%	0～19%	—	計
Ⅰ 教育研究活動	0 (0)	21 (17)	5 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	26 (26)
Ⅱ 学生支援	0 (1)	19 (16)	2 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (21)
Ⅲ 管理運営	0 (0)	9 (6)	13 (12)	1 (4)	0 (1)	0 (0)	23 (23)
Ⅳ 学生受入	2 (0)	4 (4)	1 (3)	1 (0)	1 (1)	0 (1)	9 (9)
Ⅴ 社会貢献	1 (1)	2 (4)	3 (2)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	7 (8)
項目数 計	3 (2)	55 (47)	24 (29)	3 (4)	1 (3)	0 (2)	86 (87)
(%)	3.5% (2.3%)	64.0% (54.0%)	28.0% (33.3%)	3.5% (4.6%)	1.1% (3.4%)	0% (2.3%)	100% (100.0%)

1.2 各基本計画の進捗状況

Ⅰ. 教育研究活動

取組戦略6分野における取組施策23項目にて26の具体的目標を掲げ、達成度はA：21項目、B：5項目である。戦略6分別では「1 学びの質の向上」は目標11項目中達成度Aが10項目、達成度Bが1項目、「2 教育課程の検証」は目標4項目すべて達成度A、「3 学びの可視化に基づく教育方法の検証」は目標5項目のうち、達成度Aが4項目、達成度Bが1項目、「4 ICT化の充実」は目標3項目のうち達成度Aが1項目、達成度Bが2項目、「5 キャリア教育・支援の充実」は目標1項目の達成度A、「6 研究活動の充実」は目標2項目の達成度A、Bがそれぞれ1項目であり、他項目と比較すると「4 ICT化の推進」の達成度が低かったが、2024年度より全新生入学生が個々にパソコン

を持参して授業を受けるよう推進した移行期間であることからもやむを得ない部分もあったと推測される。総じて計画していた目標を達成できた取り組みになっている。

II. 学生支援

取組戦略 6 分野における取組施策 18 項目にて 21 の具体的目標を掲げ、達成度は A : 19 項目、B : 2 項目である。戦略 6 分野別では「1 多様な学生に対する支援の充実」は、目標 4 項目のうち、達成度 A が 3 項目、達成度 B が 1 項目、「2 特待性・奨学生制度の充実」は目標 2 項目すべて達成度 A。「3 学習環境の充実」は目標 2 項目すべて達成度 A。「4 進路支援の充実」は、目標 5 項目すべて達成度 A。「5 進路支援体制の充実」は、目標 4 項目すべて達成度 A。「6 安全かつエコロジカルな機能性の高い施設・設備の充実」は、達成度 A : 3 項目、達成度 B : 1 項目である。なお、「学生寮の充実」の「学生寮の改善について」の施策は関係部署の情報共有を行った結果、学生寮が次年度から廃止となり、廃止の施策となった。

III. 管理運営

取組戦略 10 分野で 23 の具体的目標を掲げ、達成度 A : 9 項目、B : 13 項目、達成度 C : 1 項目である。取組戦略「1 政策・制度変更等への的確な対応」は 2 目標とも達成度 A である。取組戦略 9「私学助成金補助等の獲得推進と教育施設の充実」も達成度 A。取組戦略 4「FD・SD の推進」も目標 3 項目のうち 2 項目が達成度 A、達成度 B が 1 項目と目標達成がおおむね達せられた取り組みとなったが、他 7 項目では達成度 B、達成度 C にとどまった事項が多かった。達成度 C の 1 項目は取組戦略 10「調査資料に基づく教育内容・方法の改善」における目標「調査資料に基づく教育内容・方法の改善」である。教育改善に役立てる仕組みの構築に着手したが、学習成果関連データの分析・検証のうち重点項目として授業評価アンケートの分析・検証を行った年となったため達成度は C に止まったと関係部署では分析している。令和 4 年度が達成度 D であったことを鑑みると着実に進行していることが伺える。他の項目においても達成度 B、C が他の基本計画より多く見受けられるが、令和 4 年度の達成度より上昇している割合が多いことから本年度目標達成のため努力した結果が見て取れた取組戦略であると考え。しかしながら管理・運営に関する目標は、他の基本計画における取組にも影響がある事項が多いため、今後も目標達成のため努める必要がある。

IV. 学生受入（学生募集）

取組戦略 2 分野において 9 の具体的目標を掲げ、達成度 S : 2 項目、達成度 A : 4 項目、達成度 B : 1 項目、達成度 C : 1 項目、達成度 D : 1 項目である。達成度 S は取組戦略「2 入学定員の充足」の「具体的な募集方法の検討」と「HP リニューアルにかかる作業の遂行」の 2 項目である。コロナ 5 類変更に伴い志願者に直接接触できる機会を増加し、OC に間に合わせるよう HP のリニューアル作業を遂行するなどしている。達成度 D の目標は取組戦略 1「広大接続の充実」における目標「本学が望む学生像とアドミッションポリシーとの整合性の検証」である。2 年続けて達成度 D となっている目標であることから、次年度はしっかりと目標達成に向けて一層努める必要がある。達成項目 C の目標は取組戦略 2「入学定員の充足」における目標「同窓生との連携」である。令和 6 年度目標内容が今までの情報収集の結果を踏まえた制度の導入となっていることからその成果に期待したいところである。

V. 社会貢献

取組戦略3分野において7の具体的目標を掲げ、達成度S:1項目、達成度A:2項目、達成度B:3項目、達成度C:1項目である。達成度Sは取組戦略2「地域創生・連携」における目標「自治体・事業所等との連携の推進」である。今までの連携事業に加え、新たに連携協定締結を行った垂水市との連携事業の開始、広告代理店とも連携しながらその事業を進めた。全体的に評価が他の基本計画の中で低めになっているが、KPIの状況は大変良い。これは令和5年度の具体的目標が狭義の捉え方になっている点が挙げられると思う。具体的には取組戦略2「地域創生・連携」における目標「ボランティア活動の推進」である。学生ボランティアは「絆工房シオンちゃん」が推進組織ではあるが、他の活動団体も多く存在し、それらを総括的に評価できるような目標を立てれば評価とKPIの中身の齟齬がなくなると思われる。令和6年度の計画目標にはそのように改善がみられることから今後は部分的ではなく学校全体の評価として自己点検・評価できると考えられる。

1.3 KPIの達成状況

KPIの達成状況を表2に示した。

表2：KPIの達成状況（数値の下段は令和4年度KPI達成状況）

基本計画	KPI		
	項 目	R5年度目標値	達成状況
I 教育研究活動	学生満足度（授業）	80% (80%)	92.5% (89.8%)
II 学生支援	学生満足度（キャンパスライフ等）	80% (80%)	97.1% (94.1%)
	就職率	97% (97%)	98.7% (98.7%)
	県内就職率	80% (-)	85.2% (-)
III 管理運営	外部資金申請数	5件以上 (5件以上)	6件 (6件)
	地元自治体、企業等との共同研究及び受託研究	3件以上 (-)	3件 (-)
IV 学生受入	入学定員充足率	100% (100%)	70.5% (81.9%)
	県内の高校生の入学率	90%以上 (-)	94.8% (-)
V 地域貢献	年間公開講座開講数	10件 (7件)	10件 (10件)
	連携活動件数※	- (35件)	- (45件)
	地元ボランティア幹旋件数	15件 (15件)	17件 (16件)
	自治体との連携活動	30件 (-)	57件 (-)
	企業・その他団体との連携活動	30件 (-)	33件 (-)

※令和4年度、自治体との連携活動、企業・その他団体との連携活動へ変更

Ⅳ学生受入、入学定員充足率以外は目標値を上回った。ただし、学生満足度（授業）の根拠となる授業評価アンケート全体の回答率は、前期が 61.4%(令和 4 年度前期 68.4%)、後期が 71.6%(令和 4 年度後期 66.4%)であり、全体の 7 割に後期は届いた状態である。また学生満足度（キャンパスライフ等）の根拠となる学生満足度調査の回答率は全体では 86.8%(令和 4 年度 85.0%)であるが、1 年生 89.7%(令和 4 年度 1 年生 92.1%)、2 年生 84.2%(令和 4 年度 2 年生 79.0%)と授業アンケートよりは回答率が高い状況を維持している。アンケートに関しては回収率もある程度は必要となるが、その中身をいかに拾えるかに係っているのものでその分析をしっかりと行える体制となっているか今後自己点検していけるようにしていきたい。

「志學館未来計画 2022-2027」の次の計画を策定するのが 2027（令和 9）年度、4 巡目の認証評価受審は 2028（令和 10）年度となるため、次回の認証評価受審時のための新基準に照らし合わせた報告書の作成が現実味を帯びてきた。建学の精神のもと、教育の質保証や環境充実に向けて各課題に取り組みたい。

2. 大学・短期大学評価基準による点検・評価活動

一般財団法人 大学・短期大学基準協会による認証評価を令和 3 年度に受審し、適格と認定された。認証評価では「向上・充実のための課題」、「早急に改善を要すると判断される事項」ともなかったが、令和 3 年度自己点検・評価活動の際に抽出された課題を『令和 3 年度 自己点検・評価報告書』に記載している。その課題の多くは第 4 次計画で取り組むこととした。

それらの課題について、令和 4 年度の自己点検評価報告書では取組状況を個別に記載したが、本来であれば、事業計画に組み込みその取り組みについて長期的に改善していく必要がある。その為、今回は個別ではなく取り組みが事業計画及び活動報告へ組み込み、長期的に PDCA サイクルを回すことができるように機会を見て検討してもらえるように活動していき、来年度以降の自己点検評価報告書にてその成果を記載できるようにしていきたい。